

## 大館灯籠商店街

## 秋田県大館市御成町における杉を使った新たな商店街の提案

Shopping street with a lantern in Odate

Proposal of a new shopping mall using the cedar in Akita Prefecture Odate Onari cho

佐藤信治<sup>1</sup>,川崎将<sup>2</sup>,○滝村菜香<sup>2</sup>,高橋政頼<sup>3</sup>,中西宏直<sup>3</sup>,門口稚奈<sup>3</sup>,蒲生良輔<sup>3</sup>,濱嶋杜人<sup>3</sup>  
 Shinji Sato<sup>1</sup>,Masashi kawasaki<sup>2</sup>,\*Saika Takimura<sup>2</sup>,Masayori Takahashi<sup>3</sup>,Hironao Nakanishi<sup>3</sup>,Wakana Kadoguchi<sup>3</sup>,Ryousuke  
 Gamou<sup>3</sup>,Morito Hamashima

It is growing shopping street called ghost town is increasing. There is data that the shopping district of the 400 has been lost in one year. Shopping district of Akita Prefecture Odate is no exception. Is increasing shop was closed is in the area of the center. Meanwhile, branding or local, and the renovation is to have a special color, activation has been performed. In this proposal, for the mall to decline, to perform the activation of the mall using the akitasugi.

## 1. はじめに

現在,シャッター通りと呼ばれるようなゴーストタウンに近い商店街が数多くみられるようになった.1年間で全国で400の商店街が消滅したというデータもあるほど商店街は衰退している.秋田県大館市の商店街も決して例外ではなく,市の商業の中心的なエリアでさえシャッターが目立つようになった.一方で地域をまるごとブランド化し,その場所独自の空間性を持った商店街へと,リノベーションすることで地域活性化を行おうという街もみられるようになってきた.本提案では,衰退の進む商店街活性化のために,秋田杉というブランド杉に着目し商店街アーケードのリノベーションを行うことで,地域活性化につながる新たな商店街像の提案を行う.

## 2. 計画背景

大館市は秋田県の最北部に位置し,青森県からの玄関口として重要な拠点となっている.元々大館市は鉱石の運搬などのため,秋田県でもいち早く鉄道網が整備された.1980年頃までは秋田県の都市圏の中では秋田市に次ぐ規模として人口も増加し周辺が発展していった場所だった.この人口増加に伴い,駅周辺は数多くの商店で立ち並び,多くの商店街が形成された.その大館中心部には約1000を超える店舗が集まり,町の賑わいを生み出していた.しかし昭和後半には資源の枯渇に伴い鉱山の閉山が相次ぎ,人口が流出すると同時に鉄道の廃線し商業施設の衰退していった.さらに全国の一般的な主要都市と異なる点は,商業と交通の連携の取りずらさにある.中心部の鉄道駅である東大館駅

は業務委託駅の東大館駅であり,本来大館市の主要駅となるはずの大館駅は,中心市街地すなわち商業の中心から2キロメートル以上離れる場所になる.そのため市のインフラを支えてきた交通施設と経済面を支える大町周辺の商業施設が,非効率に分散したまま発展してきている.(Figure.1)

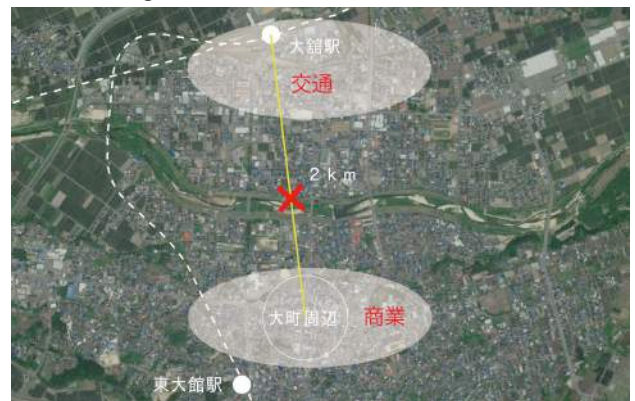


Figure.1 Odate of traffic and commercial

現在,御成町商店街のアーケードは,老朽化により取り壊す工事中である.取り壊されることにより,周辺の住民は,除雪作業や商店街の今後に対して不安を抱いている.本来アーケードが持っていた日よけや雪よけの機能が失われると,高齢化の進む商店街にとって除雪にかかる労働力の確保や,それに伴う経費もより大きく膨らんでしまうことが懸念される.またアーケード撤去後の店舗の外壁にはアーケードの跡が残ってしまっており,賑わいを生み出す場所としてはあまり綺麗とは言い難いような外見になっているのが現状である.(Figure.2)

1 : 日大理工・専任講師・海建 Assistant Prof , Dept of Oceanic Achitecture &amp; Eng , CST , Nihon-U , Dr.Eng

2 : 日大理工・院・海建 Graduate School , Dept of Oceanic Achitecture &amp; Eng , CST , Nihon-U

3 : 日大理工・学部・海建 Dept of Oceanic Achitecture &amp; Eng , CST , Nihon-U



Figure.2 Shopping street of arcade trace

### 3. 建築計画

まず,既存の店舗に対して,壁面の一部を取り壊し道路から 5 m 後退させる.これにより出来た大きな共用空間は市場兼リビングになり,単体で存在していた商店に横の繋がりを作り出すことができる.(Figure.3)

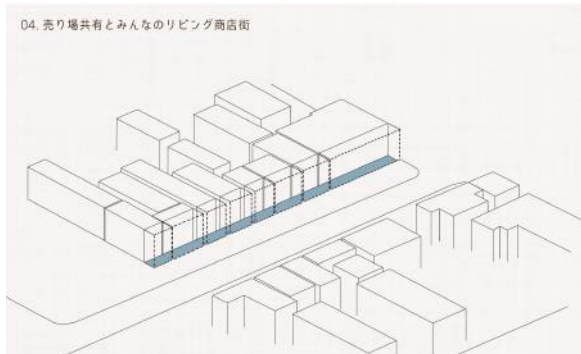


Figure.3 Retraction of the wall

3 階部分は改修を行い,宿泊施設にし,そのアクセス用の階段室を設置する.そこへ木仕上げのカーテンウォールを用いて,全体を包むように内部を形成し,商店街の賑わいを映し出す新たな外壁を作る. (Figure.4)

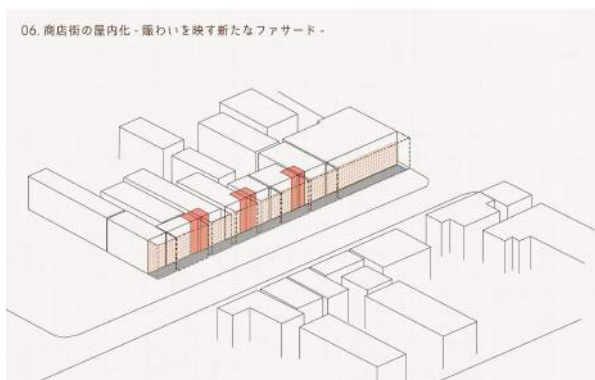


Figure.4 New outer wall

さらに取り壊されたアーケドを,アクセス及び,商店街全体での立体的な循環を目的として再構築する.建材の一部には,曲げわっぱを連想させるような梁や,組子細工の建具があしらわれ,秋田杉の伝統工芸を伝え

ていく役割も担っていく.最後に個の集合体として賑わいを生み出す商店街のイメージを,連なる屋根によって具現化する.

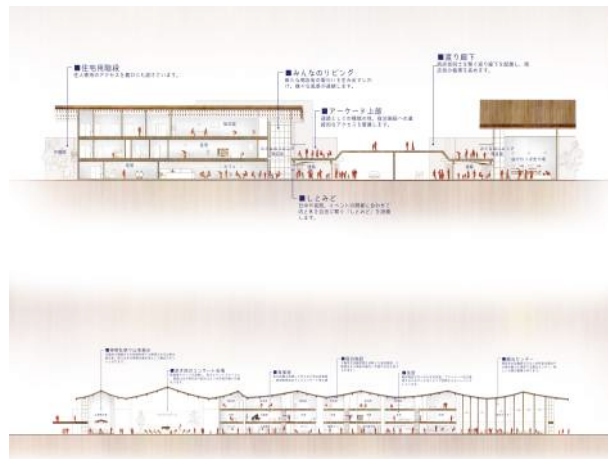


figure.5 Sectional view



Figure.6 Bird's-eye view



Figure.7 Internal space

### 4. 参考文献

『大館商工会議所』

<http://www.odatecci.or.jp/>

『新・がんばる商店街 7 7 選』